



大好き かたびら

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/katabira>

横浜市立帷子小学校
学校だよりNo.5 8・9月号
令和5年8月28日
横浜市保土ヶ谷区
川辺町65-1
TEL045-335-5896

『待つことの大切さ』

校長 梅田 佳美

夏休みが終わり、子どもたちの明るく元気な声が学校に戻ってきました。この夏の経験で子どもたちの心も体も一回り大きく成長したことと思います。これからまた秋に向けていろいろな行事が計画されています。子どもたちのさらなる活躍が楽しみです。

夏休み前の話になりますが、7月には6年生と日光修学旅行に行きました。最高学年としての素晴らしい姿が2日間見られました。2日目は日光東照宮をガイドボランティアの方と一緒に回りました。説明を聞いて徳川家康の生き方から学ぶことが多くありました。

陽明門には一本逆さに取り付けられた柱があり、不完全にすることで永遠に未完成であることを表現していると伝えられています。完璧な後には崩壊へと転じるという考えからくるそうです。また、家康は亡くなって一周忌が過ぎた後にお墓を作るように命じています。亡くなった時こそ気を引き締めてほしいという意図やふさわしい時期（徳川家が安泰となる時期）まで待つというねらいがあったようです。

家康は大名として力をつけていっても常に奢ることがありませんでした。その上、四天王と呼ばれる忠実な家臣がいました。大河ドラマで描かれているように家康は気の弱い優しい性格だったのかもしれませんが、それでも家臣に慕われ天下を取ることができました。それは、完璧だと油断することなく常に学び続ける姿勢や周りの人の意見を聞き必要な「時」を見定めて行動してきたからでしょう。

学校でも高学年になるとクラブ活動・委員会活動、たてわり活動、運動会などで集団をリードしていく場面があります。自分の思い通りにならないこともあります。それでも友だちの考えに耳を傾け、時には焦らずに待つことを大切に行動すれば、下の学年の子どもたちからの信頼を得られ充実した活動ができることでしょう。

家康は、「偉人とは出世するばかりが偉人ではない。平凡な何でもないことに気を付けて立派にこの世に処していくのが、偉人であろう。」と言っています。

偉人の生き方や言葉は、子育てや教育にも通じるものがあります。これからも帷子小学校が笑顔いっぱいの学校であるように、教職員も学び続けることを忘れず、何気ない毎日に気を配り、時にはあわてず「待つ」を大切にして子どもたち一人ひとりの成長に合わせて支援していきたいと思っています。